

富山発の技術で世界リード

火力発電や製鉄で排出される二酸化炭素(CO₂)から、ポリエステルやペットボトルの原料となる「パラキシレン(PX)」を生産する世界初の技術を開発した。革新的な技術で、CO₂の大幅な削減も期待できる。民間企業5社と連携して2028年度までに年間10万トンの量産体制を整える計画だとい

い、「富山発の技術で世界をリードしたい」と語る。

PXは現在、石油から生産されている。CO₂と水素からも合成できるが、6段階の複雑な過程を経る必要



人の けさ

C O₂から樹脂原料を作る技術を確認した富山大大学院教授

つばきのりたつ 椿 範立さん

があるほか、多大なコストがかかるため工業化が難しかった。

「ワンステップで生産することができれば、経済と環境の両面で貢献できる」と約10年前に研究を始めた。18年にCO₂と水素から一段階で合成できる特殊な触媒の開発に成功した。従来より低コストな上、多くのCO₂を削減できる画期的な技術として注目を浴びた。現在、触媒の性能向上など商業生産に向けた研究を進めている。

専門はエネルギー・触媒化学。「常に10年、20年先を見据える」ことが信念だ。8月の英科学誌ネイチャーで化学プラントを従来の10分の1に小型化できる新技术を発表するなど、世界に先駆けた技術を次々と生み出している。

新型コロナウイルスの影響でテレワークが多くなり「ひどい肩こりが悩みの種」と苦笑い。「趣味のゴルフを再開して、気分転換したい」。中国湖南省出身。富山市で妻と2人暮らし。55歳。

(社会部・松澤拓也)